

2020年卒
Vol.04

2月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2019年2月発行)

いよいよ来月に採用広報開始を控え、緊張感が増す就職戦線。2020年卒者学生の最新動向を知るべく、キャリアス就活・学生モニターを対象に、2月1日時点での就職戦線の見方や準備状況などを尋ねた。前年同時期調査との比較や、1月に実施した前回調査からの変化にも着目して分析する。

1. 就活解禁1カ月前の不安

- 「希望する企業に内定をもらえるか」76.1%、「内定をもらえるか」69.4%の順
- 男子に比べ女子で全体的にポイントが高く、不安の大きさが表れている

2. 2月までの就職活動準備状況

- 「自己分析」80.3%、「業界研究」74.9%、「就職準備イベントに参加」74.7%の順
- 前年同期調査に比べ「イベント参加」「企業研究」の伸びが目立つ

3. インターンシップの参加状況と2月の参加予定

- インターンシップ参加経験者は全体の92.4%。前年同期調査(86.6%)よりさらに増加
- 平均参加社数7.2社のうち、就職したいと思った企業は2.2社
- 2月のインターンシップ先の選び方は「業界を絞って応募」(52.6%)が最多

4. 現時点の志望業界

- 「明確に決まっている」34.4%。「決まっていない」は21.3%で前年より6.6ポイント増
- 志望業界1位「素材・化学」、2位「情報・インターネットサービス」、3位「医薬品・化粧品」

5. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況

- 「本選考を受けた」39.9%。受験社数は平均2.7社。インターンシップ参加企業が中心
- 「内定を得た」8.1%。前年同期(4.6%)を3.5ポイント上回る

6. エントリーを決めている企業

- 「エントリーを決めている企業がある」90.1%。決めている企業数は平均10.3社
- 就職先候補の判断材料は「仕事内容」がトップ。「奨学金支援制度」は対象者の4割が意識

7. ゴールデンウィーク中の採用活動への意見

- 「ぜひやって欲しい」19.7%、「やむを得ない」41.6%。「やらないで欲しい」が38.7%

8. Uターン就職の希望状況

- Uターン就職希望者は27.6%。「出身地・地元が好き／暮らしやすい」が理由のトップ

調査概要

- 調査対象：2020年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,322人（文系男子450人、文系女子381人、理系男子325人、理系女子166人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2019年2月1日～6日
サンプリング：キャリアス就活2020学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

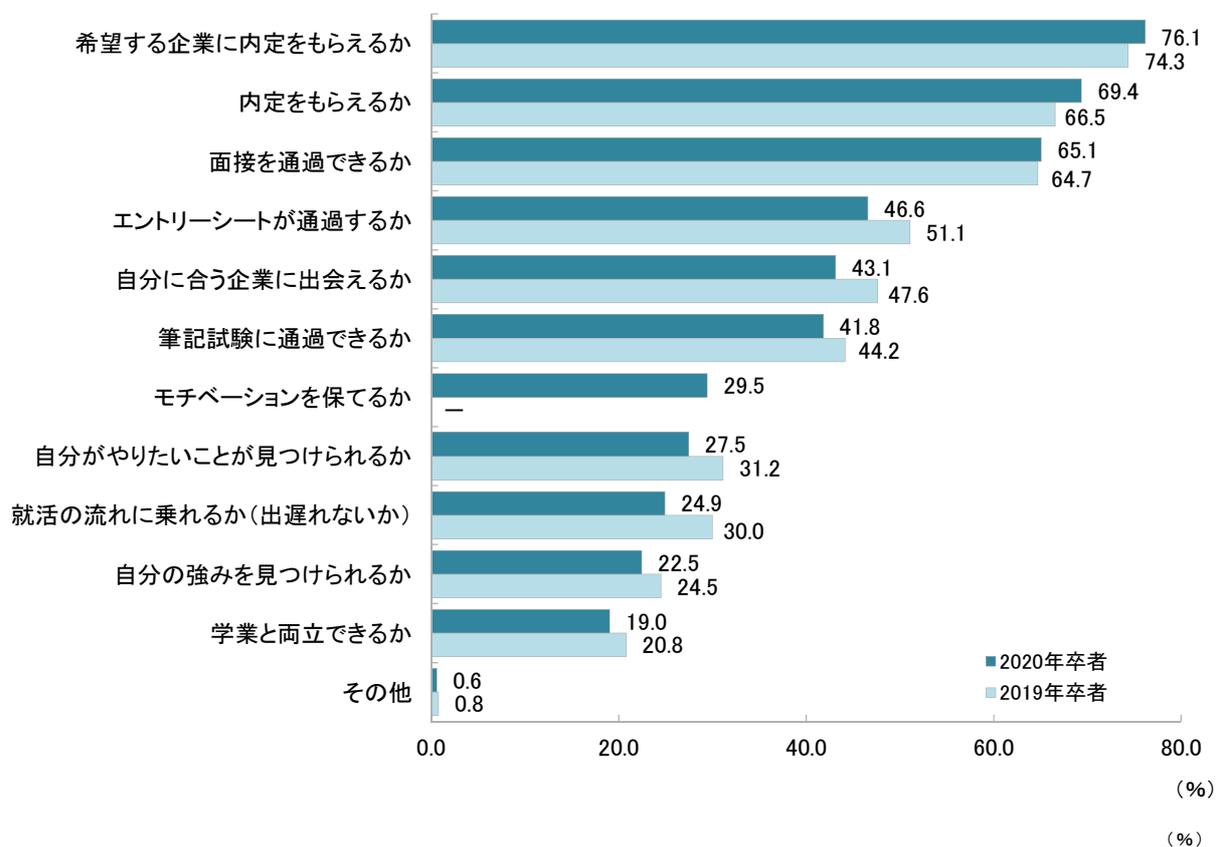
1. 就活解禁1カ月前の不安

3月の就職活動解禁を目前に、どのような不安を感じているかを尋ねた。あてはまるものをいくつでも選んでもらったところ、最も多かったのは「希望する企業に内定をもらえるか」で、7割強が選んだ(76.1%)。次いで「内定をもらえるか」(69.4%)が続く。売り手市場を背景に、内定獲得そのものよりも、希望の会社に内定が取れるかを心配する学生が今年も多いことがわかる。

選考試験への不安に注目すると、面接(65.1%)、エントリーシート(46.6%)、筆記試験(41.8%)の順。面接への不安が依然大きく、苦手意識を持つ学生が多いことを示している。

文理男女別に見ると、男子に比べ女子で全体的にポイントが高く、就職活動への不安の大きさがうかがえる。とりわけ選考試験への不安で差が目立ち、例えば面接は男子が6割前後なのに対し、女子は文理とも7割を超えている(文系女子70.5%、理系女子73.0%)。また、「学業と両立できるか」を選んだのは全体の2割弱(19.0%)で最も少ないが、理系においてポイントが高いのが特徴的。

＜就活解禁1カ月前に感じている不安＞



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
希望する企業に内定をもらえるか	76.1	74.2	76.6	75.5	81.6
内定をもらえるか	69.4	68.6	73.4	64.2	72.4
面接を通過できるか	65.1	61.4	70.5	59.7	73.0
エントリーシートが通過するか	46.6	41.3	52.7	40.6	58.9
自分に合う企業に出会えるか	43.1	37.9	50.0	35.8	55.8
筆記試験に通過できるか	41.8	39.9	50.5	33.0	44.2
モチベーションを保てるか	29.5	26.9	33.5	23.9	38.0
自分がやりたいことが見つげられるか	27.5	28.0	33.0	23.0	22.1
就活の流れに乗れるか(出遅れないか)	24.9	19.1	28.7	23.9	34.4
自分の強みを見つげられるか	22.5	22.2	26.1	18.6	22.7
学業と両立できるか	19.0	13.7	17.6	23.9	27.6
その他	0.6	0.7	0.3	1.3	0.0

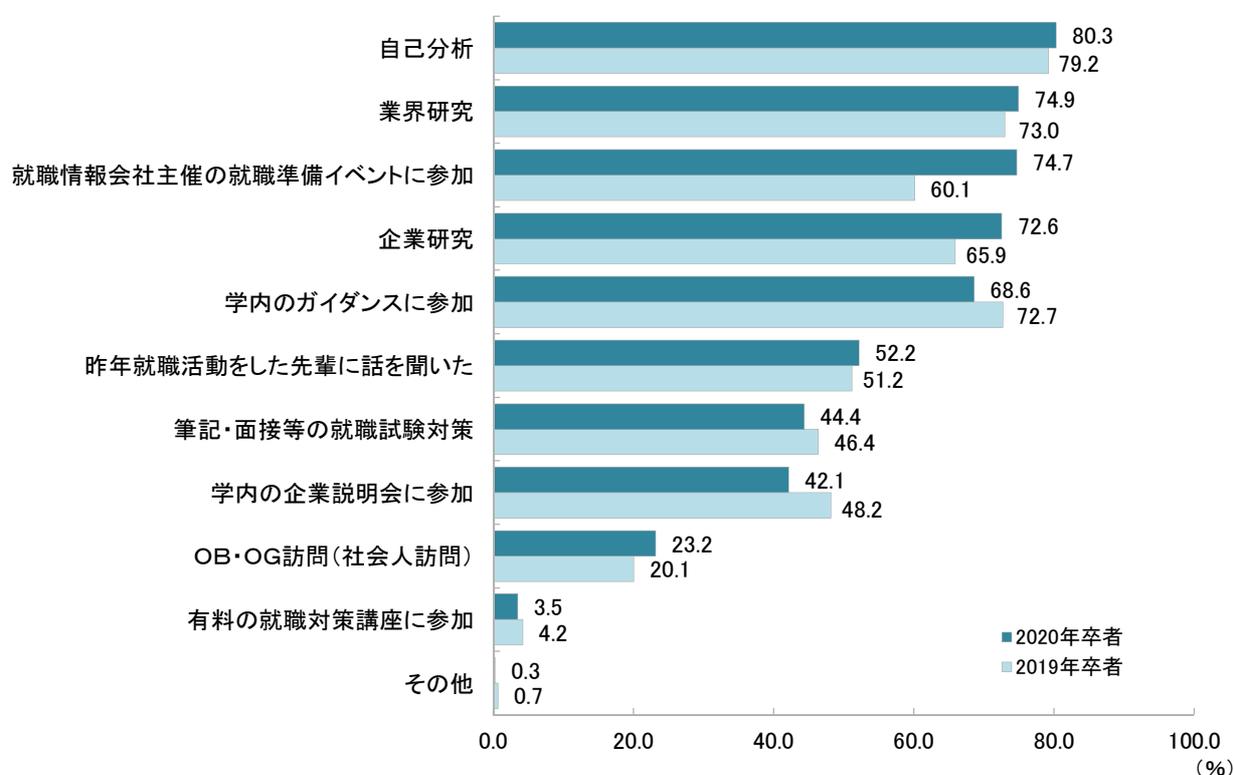
2. 2月までの就職活動準備状況

就職活動の準備としてこれまでに行ったもので最も多いのは「自己分析」で、8割を超えている(80.3%)。これに「業界研究」(74.9%)、「就職情報会社主催の就職準備イベントに参加」(74.7%)が続く。「就職準備イベント」は前年同期調査よりも大きくポイントが増えた(60.1%→74.7%)。こうしたイベントでは、インターンシップ情報や業界研究の一助となる材料を得ることができるが、そうした情報を求め足を運ぶ学生が増えたようだ。

また、「企業研究」は65.9%から6.7ポイント増加し、7割を超えた(72.6%)。業界研究だけでなく具体的な志望企業(個社)を掘り下げる段階へと進むタイミングが早くなったことがうかがえる。

一方、前年調査よりもポイントが減ったのは「学内のガイダンスに参加」「学内の企業説明会に参加」など。

<就職活動準備で2月までにやったこと>



■就職活動準備状況や不安について

○とにかく第一志望の企業に内定をもらえるか不安。そして、面接も筆記も自己分析も、時間が足りないと思う一方である。 <文系女子>

○大手企業の就職は激化しているため、志望企業に就職できるかが不安です。 <文系男子>

○自己分析をしても自分のやりたいことが見つかる気がしない。 <理系男子>

○2月は履歴書の作成や、志望企業のリストアップ、選考試験対策などやることが多いので、毎日頑張っていた。 <文系女子>

○面接が不安なので、面接の練習をする機会をもっと持ちたいと思っています。 <文系男子>

○全体的に就職活動の時期が早まってきており、本腰を入れて活動する前にピークが過ぎ去ってしまうのではないかと不安になってきている。 <理系男子>

○大学の試験期間が終わり、一斉に就活モードになったため、就活解禁前の2月から勝負だと思う。 <理系女子>

○自分にあった企業を見つけられるか不安はあるが、よく見極めて就職活動をしたい。 <文系女子>

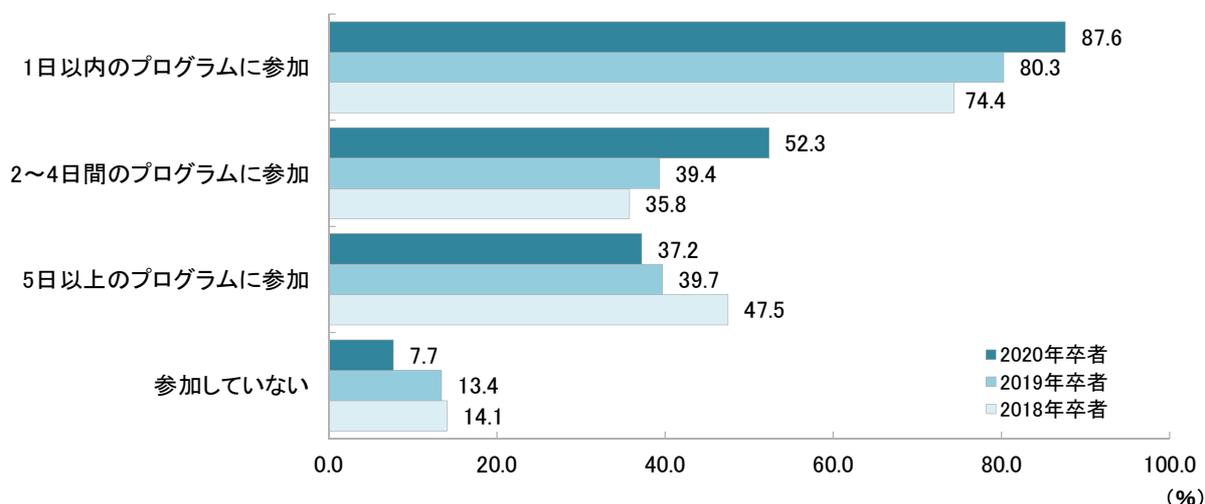
3. インターンシップ参加状況と2月の参加予定

2月1日現在、インターンシップの参加経験を持つ学生は、9割を超える(92.4%)。高水準だった前年同期調査(86.6%)をさらに上回った。

プログラム日数ごとに参加状況を見ると、「1日以内」の参加者が最も多い。前年調査より7.3ポイント増加し、9割近くが参加(87.6%)。「2~4日間」は、前年より12.9ポイント増加し、半数を超えた(52.3%)。一方、「5日以上」は37.2%と、前々年に比べ10ポイント以上減少。短期プログラムへの参加が進んでいることが顕著に表れている。

また、参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、8割強(84.0%)の学生が「あった」と回答した。インターンシップ平均参加社数7.2社に対し、就職したいと思う企業は2.2社で、参加企業の約3割。学生が、インターンシップを通じて、就職先としてふさわしい企業かを慎重に見極めている様子がうかがえる。

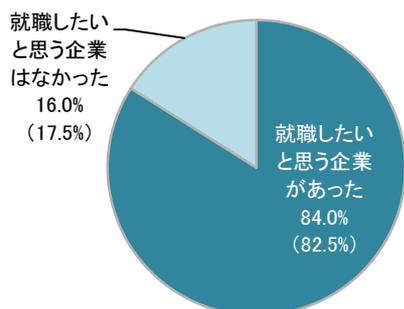
＜プログラム日数別参加状況＞



＜プログラム日数別参加社数＞

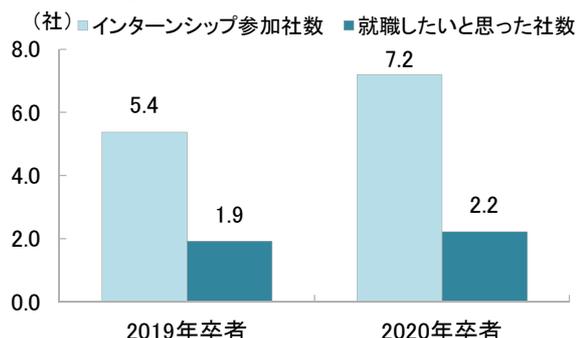
	2020年卒者	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	(2019年卒者)	(2018年卒者)
1日以内のプログラム参加社数(平均)	5.6	6.3	5.7	4.7	5.1	4.5	3.8
2~4日間のプログラム参加社数(平均)	2.2	2.5	2.2	1.9	2.1	1.8	1.7
5日以上プログラム参加社数(平均)	1.5	1.7	1.4	1.5	1.2	1.5	1.9

＜インターンシップ参加企業への就職意向＞



※()内は2018年の同調査での2月現在の数値

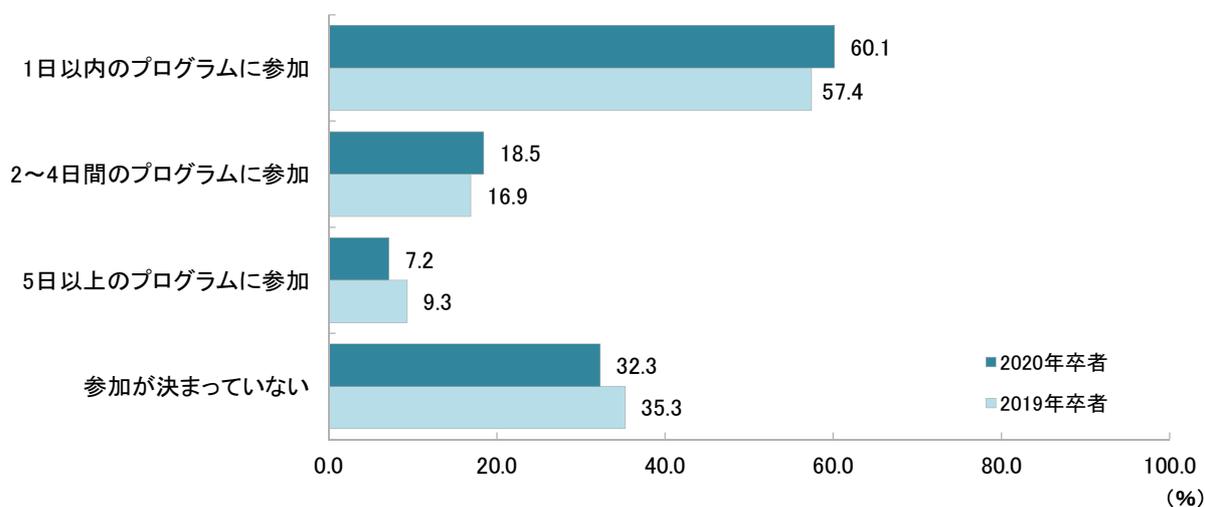
＜インターンシップに参加して就職したいと思った社数＞



今後の参加予定を尋ねたところ、全体の6割強(67.7%)が2月のインターンシップへの参加が決まっていると回答した。プログラム日数別に見ると、「2~4日間」(18.5%)、「5日以上」(7.2%)に対し、「1日以内」は約6割(60.1%)と圧倒的に多い。参加予定社数を見ても、「1日以内」では平均2.6社に対し、「2~4日間」「5日以上」は半分程度にとどまる(それぞれ1.3社、1.1社)。2月のインターンシップ参加も、短期開催のものが中心であることがわかる。

参加企業の選び方としては、「業界を絞って応募」(52.6%)が最も多く、「就職志望度の高い企業に絞って応募」も4割を超える(44.0%)。一方「様々な業界にわたって応募」は約3割にとどまっております(32.7%)、3月の解禁を前に、就職先として関心の高い業界や企業への理解を深めるために参加したいと考える学生が多いことがうかがえる。

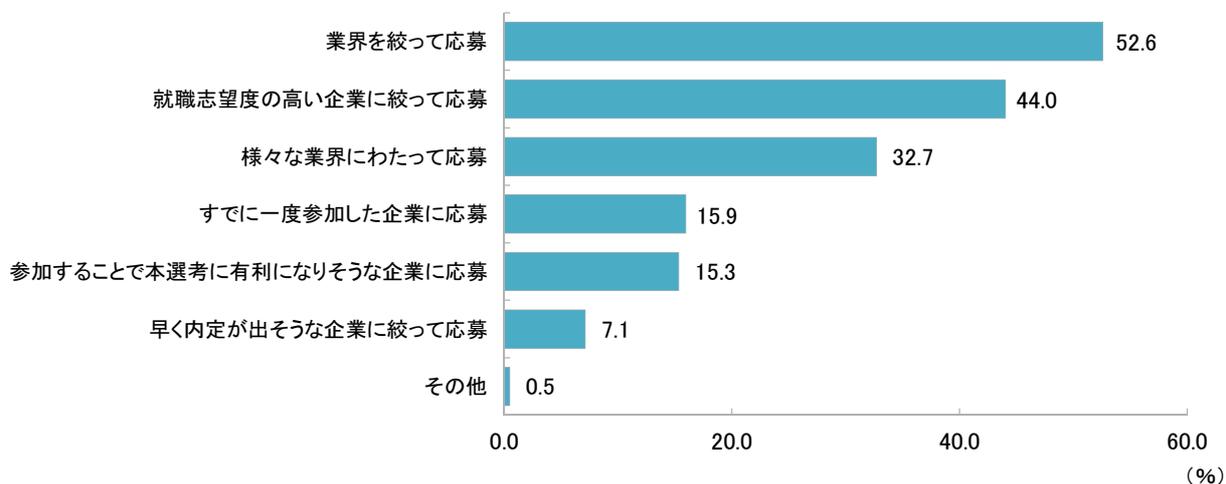
<2月インターン プログラム日数別参加予定>



<プログラム日数別参加予定社数>

	2020年卒者	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	(2019年卒者)
1日以内のプログラム参加決定社数(平均)	2.6	2.7	2.6	2.4	2.3	2.5
2~4日間のプログラム参加決定社数(平均)	1.3	1.3	1.3	1.2	1.4	1.2
5日以上プログラム参加決定社数(平均)	1.1	1.2	1.0	1.0	1.3	1.1

<2月のインターンシップ先の選び方>



4. 現時点の志望業界

2月1日時点で志望業界が「明確に決まっている」という学生は3割を超え(34.4%)、11月調査から回を増すごとに着実に増加している。一方で、「決まっていない」が2割超で(21.3%)、前年同期調査(14.7%)よりも6.6ポイント多い。「決まっていない」学生に、志望業界に対する考えを二択で尋ねてみたところ、「志望業界を決めて就活したい」が54.3%、「このまま決めずに就活したい」が45.7%と、半々に分かれた。業界を絞らずに活動する学生が1割程度いる計算だ。

志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねたところ(40業界から5つまで選択)、「素材・化学」「情報・インターネットサービス」「医薬品・医療関連・化粧品」がトップ3だった。但し、ポイントにほとんど差が見られず、人気は分散している。また、志望業界は3月の解禁以降に企業と接することで変わるケースもあるため、順位は今後変動していく可能性がある。

<志望業界の決定状況>

	全体	1月調査	11月調査	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	34.4	25.6	21.4	35.5	31.6	24.7	45.2	43.4
なんとなく決まっている	44.3	44.5	51.9	49.7	43.3	49.3	38.8	45.8
決まっていない	21.3	29.9	26.7	14.7	25.1	26.0	16.0	10.8

<志望業界(上位20業界)>

		※5つまで選択 (%)								
	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子					
1	素材・化学 ②	16.4	銀行	20.5	マスコミ	22.3	電子・電機	26.4	医薬品・医療関連・化粧品	37.8
2	情報・インターネットサービス ①	16.3	商社(総合)	18.7	銀行	17.4	情報・インターネットサービス	23.4	素材・化学	35.1
3	医薬品・医療関連・化粧品 ⑤	16.2	建設・住宅・不動産	16.9	ホテル・旅行	16.0	素材・化学	23.4	水産・食品	29.7
4	建設・住宅・不動産 ⑦	15.4	調査・コンサルタント	16.9	運輸・倉庫	15.6	自動車・輸送用機器	20.1	建設・住宅・不動産	17.6
5	電子・電機 ⑥	15.0	情報・インターネットサービス	15.1	医薬品・医療関連・化粧品	14.5	機械・プラントエンジニアリング	18.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	16.2
6	水産・食品 ③	14.9	運輸・倉庫	14.5	調査・コンサルタント	13.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	18.3	精密機器・医療用機器	16.2
7	調査・コンサルタント ⑨	14.6	官公庁・団体	13.9	商社(総合)	13.1	精密機器・医療用機器	17.2	官公庁・団体	13.5
8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑧	14.0	エネルギー	12.8	情報・インターネットサービス	12.8	医薬品・医療関連・化粧品	16.8	情報・インターネットサービス	12.8
9	銀行 ④	12.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.5	官公庁・団体	12.4	建設・住宅・不動産	15.8	調査・コンサルタント	10.1
10	商社(総合)	12.3	商社(専門)	11.9	建設・住宅・不動産	12.1	水産・食品	15.8	電子・電機	10.1
11	官公庁・団体	12.0	マスコミ	11.9	水産・食品	11.3	調査・コンサルタント	15.0	商社(専門)	8.8
12	運輸・倉庫	11.9	電子・電機	11.6	商社(専門)	11.0	通信関連	11.7	印刷・パッケージ	7.4
13	マスコミ ⑩	11.5	素材・化学	11.3	人材紹介・人材派遣	11.0	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	11.0	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	6.8
14	自動車・輸送用機器	11.4	自動車・輸送用機器	10.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.6	鉄鋼・非鉄・金属製品	11.0	商社(総合)	6.8
15	精密機器・医療用機器	10.2	水産・食品	10.7	電子・電機	10.6	運輸・倉庫	9.9	自動車・輸送用機器	6.1
16	エネルギー	9.6	保険	10.1	保険	10.6	エネルギー	8.8	エネルギー	5.4
17	商社(専門)	9.3	医薬品・医療関連・化粧品	7.4	教育	9.6	官公庁・団体	8.4	マスコミ	5.4
18	機械・プラントエンジニアリング	9.2	証券・投信・投資顧問	7.4	エネルギー	8.9	農業・林業・鉱業	7.0	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	4.7
19	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.4	通信関連	7.4	エンターテインメント	6.7	商社(総合)	6.6	その他サービス	4.7
20	通信関連	7.3	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.4	機械・プラントエンジニアリング	6.7	商社(専門)	4.8	鉄鋼・非鉄・金属製品	4.7
					自動車・輸送用機器	6.7				

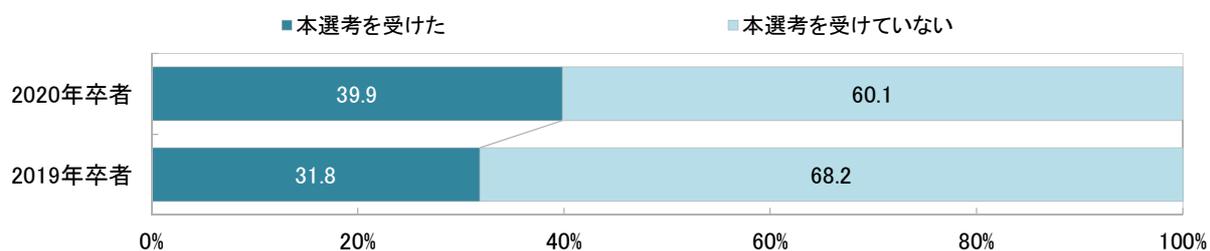
※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

5. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況

インターンシップの選考を除く、本選考（採用選考）の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という学生は4割に迫り（39.9%）、前年同期調査（31.8%）を8.1ポイント上回った。受験者を分母とした受験社数の平均は2.7社で、前年（2.2社）よりも0.5社多い。また、67.6%が「インターンシップ参加企業の本選考を受けた」と回答しており、インターンシップ参加企業を中心に数社の本選考を受験したケースが多いようだ。

内定状況については、「内定を得た」との回答が8.1%で、前年同期（4.6%）を3.5ポイント上回った。前年は3月調査時点で8.0%だったので、先月調査時に引き続き前年より1カ月程度早いペースで進行している。

<2月1日現在の本選考を受けた企業の有無>

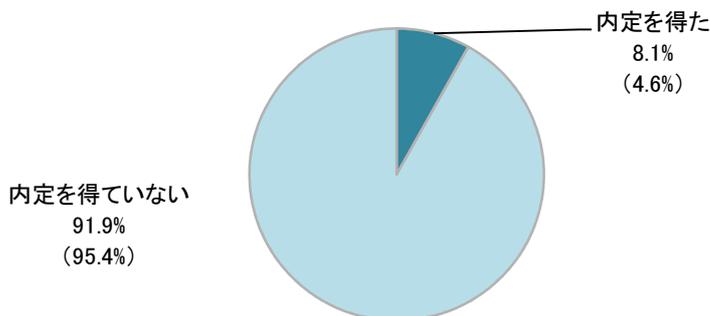


	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	39.9%	31.8%	43.3%	41.7%	32.6%	40.4%
本選考を受けていない	60.1%	68.2%	56.7%	58.3%	67.4%	59.6%
選考企業社数(平均)	2.7社	2.2社	2.9社	3.1社	2.3社	2.3社

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
インターンシップ参加企業の本選考を受けた	67.6	64.6	67.9	68.9	73.1
インターンシップ参加企業の本選考を受けていない	30.4	32.8	30.2	28.3	26.9
インターンシップ参加経験なし	2.1	2.6	1.9	2.8	0.0

*本選考を受けた者が対象

<2月1日現在の内定の有無> *「内定」には、内々定を含む



※()内は2018年の同調査での2月現在の数値

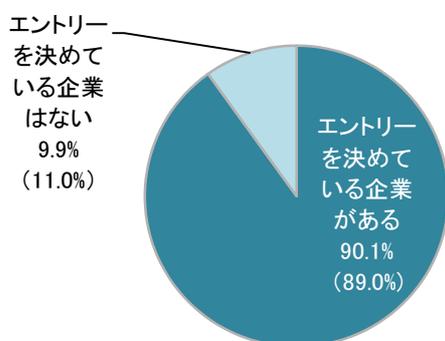
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	8.1%	4.6%	8.4%	8.1%	6.2%	10.8%
内定を得ていない	91.9%	95.4%	91.6%	91.9%	93.8%	89.2%
内定社数(平均)	1.3社	1.2社	1.4社	1.3社	1.2社	1.2社

6. エントリーを決めている企業

就職活動解禁(3月1日)を1カ月後に控え、「エントリーをしようと決めている企業がある」という学生は全体の約9割(90.1%)に上った。具体的にエントリーを決めている企業の数は平均10.3社で、前年調査(9.5社)を上回った。先に見たように(3ページ)、就職活動準備として企業研究を実施した学生が7割を超えており、その結果、就職先として志望する企業数の増加につながったと考えられる。

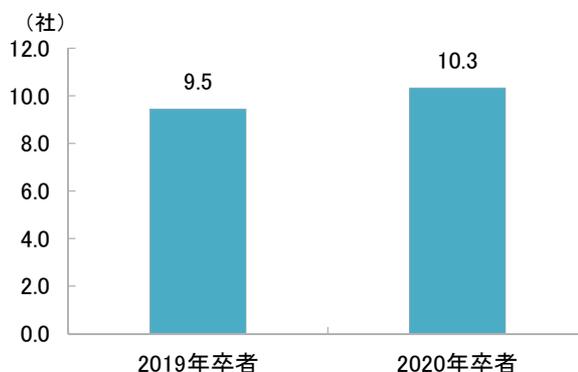
また、就職先の候補として興味が持てるかを判断するために知りたい情報を尋ねた。最も多いのは「仕事内容・職種」で6割強(64.6%)が選んだ。次いで「福利厚生」(61.5%)、「勤務地」(55.7%)が続き、条件に関する項目が上位に挙がった。上位項目の多くは過半数を超えており、様々な角度から判断したいと考える学生が多いことが読み取れる。

＜エントリーを決めている企業＞

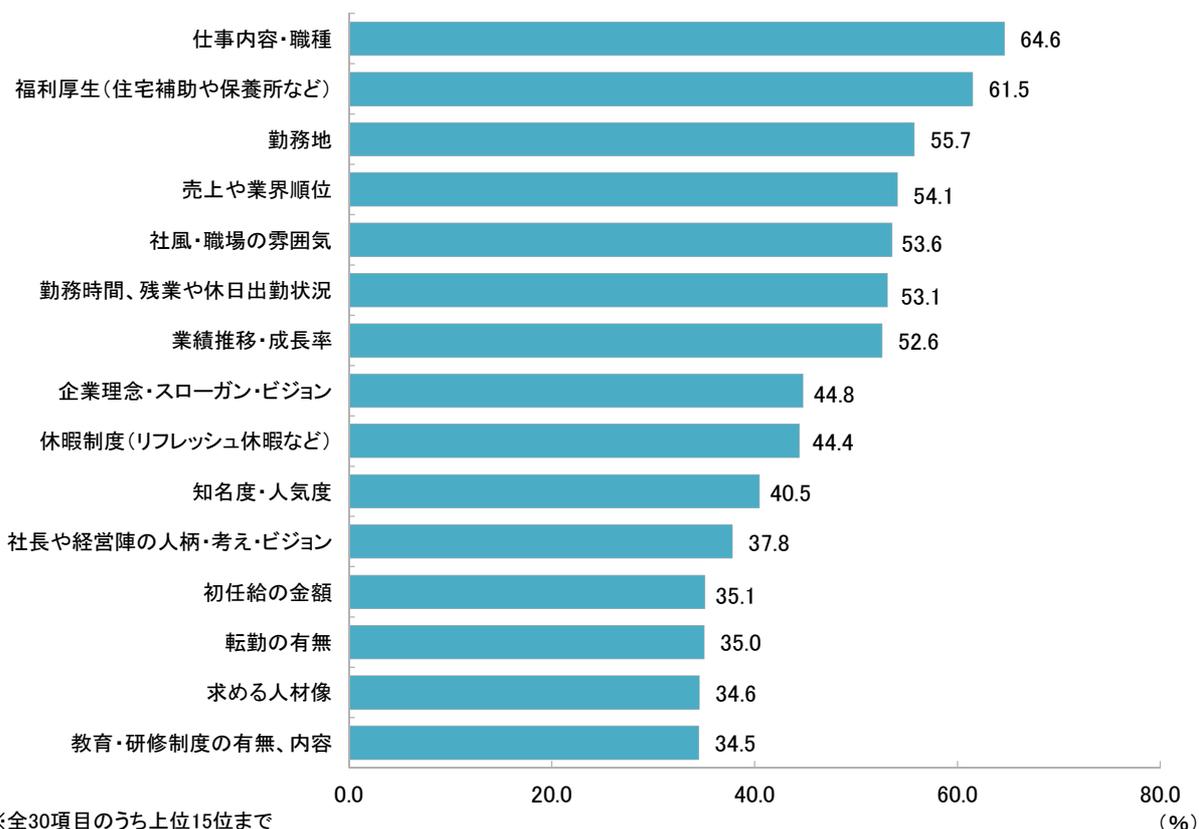


※()内は2018年の同調査での2月現在の数値

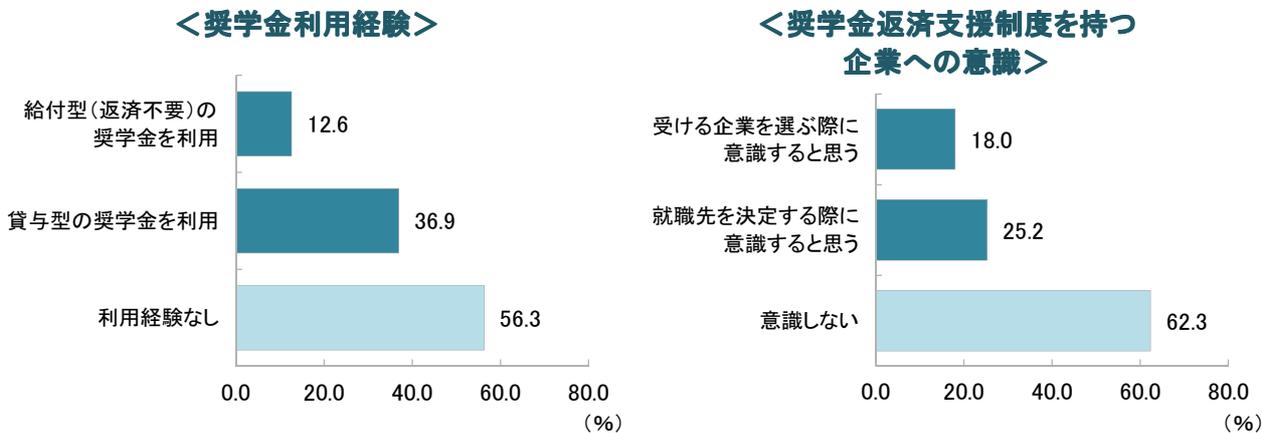
＜エントリーを決めている企業の社数＞



＜就職先の候補として興味が持てるかを判断するために知りたい情報＞



就職先企業選びにおける、企業の奨学金返済支援制度の影響について調べた。奨学金の利用経験者は、「給付型」「貸与型」を合わせて約 4 割 (43.7%)。「貸与型」奨学金の利用経験者 (全体の 36.9%) に対し、奨学金返済支援制度を持つ企業を意識するかを尋ねた。「受ける企業を選ぶ際に意識すると思う」は 2 割弱 (18.0%)。「就職先を決定する際に意識すると思う」は 25.2% だった。



7. ゴールデンウィーク中の採用活動への意見

今年のゴールデンウィークは 10 連休が予定されているが、その間に企業が採用活動を行うことについての考えを尋ねた。「ぜひやって欲しい」は 2 割未満 (19.7%) にとどまったのに対し、「やらないで欲しい」は 4 割近くに上り (38.7%)、連休中の採用活動に否定的な学生が多いことがわかる。ただし「やむを得ない」も約 4 割 (41.6%) あり、多少の活動は覚悟しているようだ。



■ゴールデンウィーク中の採用活動への意見

【ぜひやって欲しい】

- できるだけ早く内定が欲しいし、休みで時間だけが過ぎていくのは不安だと思うから。 <文系男子>
- GW 中は実家に帰省する予定なので、地元の企業で採用活動してくれた方が受けに行きやすい。 <文系女子>
- 理系院生のような平日は研究で忙しい就活生も、積極的に就活を行うことができるから。 <理系男子>

【やむを得ない】

- できれば就活はやりたくはないが、自分の将来がかかっているからやむを得ない。 <文系男子>
- 志望する企業で説明会や面接があれば参加するが、志望度が低ければ見送るかもしれない。 <文系女子>
- 10 日間も選考をやらないと、そのしわ寄せが他の期間に来てしまう可能性があるから。 <文系男子>

【やらないでほしい】

- 地方から首都圏へ行くのにいつも以上にお金がかかり、予約がとれなさそう。 <理系男子>
- GW に採用活動を行う企業はブラックだと思ってしまう。 <文系男子>
- 一度休みを取って、自分の就職活動を見つめ直す時間も必要であると考え。 <文系女子>
- GW は研究調査で忙しくなるため。 <理系女子>

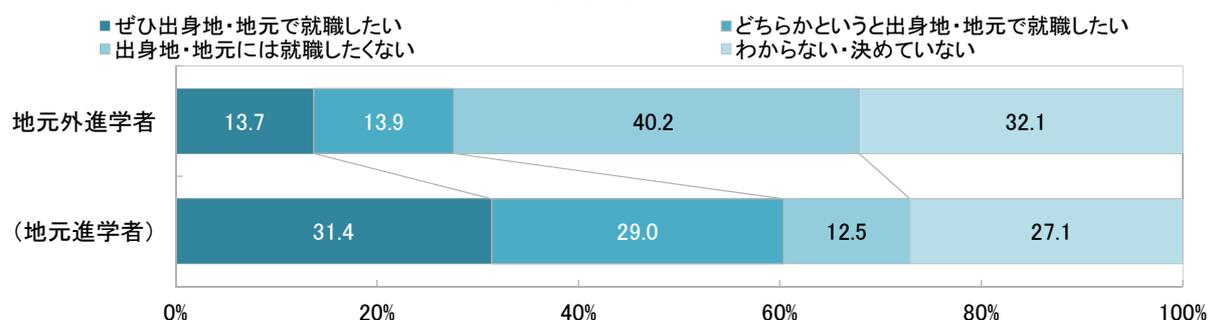
8. Uターン就職の希望状況

出身地・地元を離れて進学している学生(＝地元外進学者)に、Uターン就職を希望しているか否かを尋ねた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」(13.7%)と「どちらかという出身地・地元で就職したい」(13.9%)を合わせたUターン就職希望者は27.6%。出身地・地元に戻りたくない学生(40.2%)を大きく下回った。地元の大学に進学した学生の6割以上(計60.4%)が地元就職を希望しているのと対照的だ。

Uターン就職希望状況を出身地別に見ると、Uターン希望者が多いのは「中部出身」(計36.4%)、「北海道出身」(計34.8%)、「近畿出身」(計30.9%)の順。

Uターン就職をしたい理由で最も多いのは、「出身地・地元が好き／暮らしやすい」で6割強(65.3%)。次いで「親の近くで暮らしたい」(49.0%)、「出身地・地元に貢献したい」(42.2%)と続く。「志望企業が出身地・地元にある」という人は2割程度(23.1%)にとどまる。地元の企業が魅力的というよりも、地元への愛着や実家に近い場所での生活を希望することからUターン就職をしたいと考える学生が多いようだ。

<地元就職希望状況>



<地元外進学者のUターン就職希望状況(出身地別)>

	全体	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	近畿出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
ぜひ出身地・地元で就職したい	13.7	26.1	10.8	11.4	20.2	13.4	13.0	7.1
どちらかという出身地・地元で就職したい	13.9	8.7	8.1	12.0	16.2	17.5	16.7	12.5
出身地・地元には就職したくない	40.2	26.1	43.2	45.2	36.4	30.9	46.3	46.4
わからない・決めていない	32.1	39.1	37.8	31.3	27.3	38.1	24.1	33.9

<Uターン就職をしたい理由(地元外進学者)>

